

卒業を迎えて

准看護学科第 63 期生 小林 朱音

准看護学科での 2 年間を振り返り、卒業の日を迎えられた喜びと感謝の気持ちが込み上げてきます。

子供を育てながら学ぶことは決して簡単ではなく、何度もくじけそうになりましたが「准看護師になりたい」という強い思いと、支えてくれた家族や友人、先生が存在があったからこそ最後までやり遂げることができました。

入学当初は、久しぶりの勉強に戸惑いましたが、講師の先生方から学ぶことはとても興味深くいろいろな知識が増えていくことを嬉しく感じていました。しかし、専門的な内容や医療用語は難しく、家庭でも勉強時間を確保しなくてはいけないというところで悩みながら、わずかな時間も無駄にしないように家事をしながら動画を観る、子供が寝たあとに必ず 2 時間は勉強するなど目標をたてながら工夫して乗り越えました。その中で看護は医学的な知識や技術を学ぶだけではなく、患者さんの気持ちに寄り添うことが求められる仕事だと感じ、命と向き合う責任の重さを感じました。

各論実習では、夜遅くまで課題に取り組みながら、翌朝には家族の朝食を準備する毎日は、正直なところ大変ではありましたが、毎日待っていてくれる患者さんがいたから頑張れました。個別性を考え、患者さんは今どのような状況でどのような援助を必要としているか、私には何ができるだろうと必死に向き合いました。先生や指導者さんの助言をいただきながら、患者さんとコミュニケーションを図ることで知り、看護援助を実践した時、笑顔で伝えてくれた感謝の言葉や励ましの言葉は一生忘れることのできない特別な経験となり、少しずつ自信を持つことができました。それと同時に患者さんを受け持たせていただいているという責任をより実感し、小さな変化を逃さないために学びつづけることの大切さを知りました。

少人数のクラスでは話し合いを重ねる中で相手を理解し、自分の考えを伝える大切さを学び、成長することができました。この経験は、看護の現場でも必ず役立つと感じています。

卒業後は、准看護師として働きながら経験を積み、いつか正看護師の資格取得にも挑戦したいと考えています。

この 2 年間で学んだ知識と技術を活かし、「患者さんを第一に考える」ということを忘れずに努力を続けます。そして一人でも多くの患者さんに寄り添い、安心と笑顔を届けられるように准看護師として頑張ります。

